

特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームとは「介護老人福祉施設」ともいい、介護保険制度下の要介護者で、身体上、精神上に著しい障害があつて、ご家庭で介護を受けられない方に対し、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上のサービス、機能訓練、健康管理及び療養上のサービスをご提供して、自立に向けて、安定した生活を維持して頂くことを目的としています。又、ゆあほうむ榛原では個別処遇を重視し、グループ単位での介護に取り組んでおります。

(1) 事業開始年月日

平成 7年12月1日

平成16年10月1日 新館クレーレ(ユニット型)オープン

(2) 入所定員

①本館 入所者 54人
 ショートステイ 16人

②新館 入所者 30人

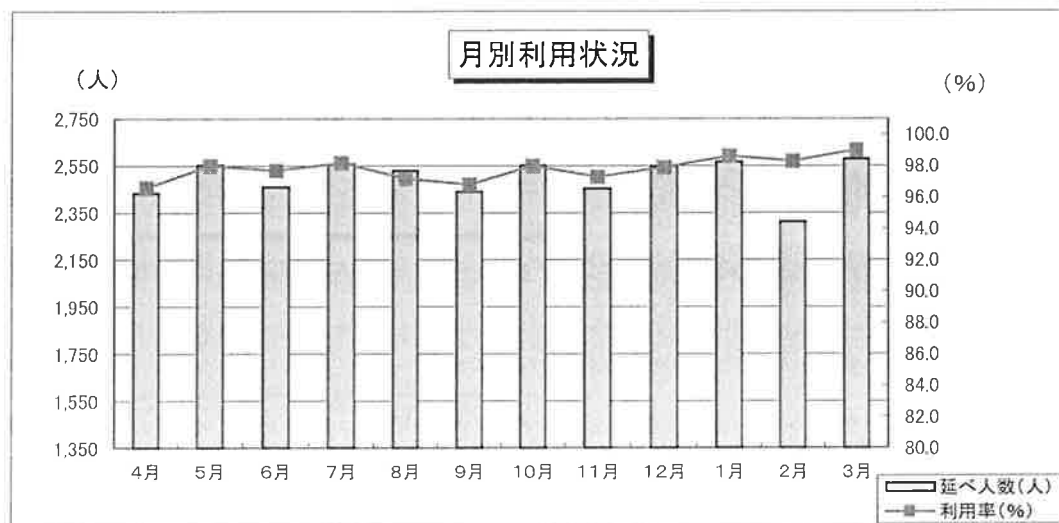
(3) 入所者の部屋

①本館 1人部屋 10室
 2人部屋 2室
 4人部屋 14室

②新館 1人部屋 30室

(4) 入所者の利用状況

	2年										3年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
延べ人数(人)	2,435	2,553	2,461	2,556	2,530	2,440	2,551	2,453	2,549	2,567	2,312	2,579	
利用率(%)	96.6	98.0	97.7	98.2	97.2	96.8	98.0	97.3	97.9	98.6	98.3	99.0	



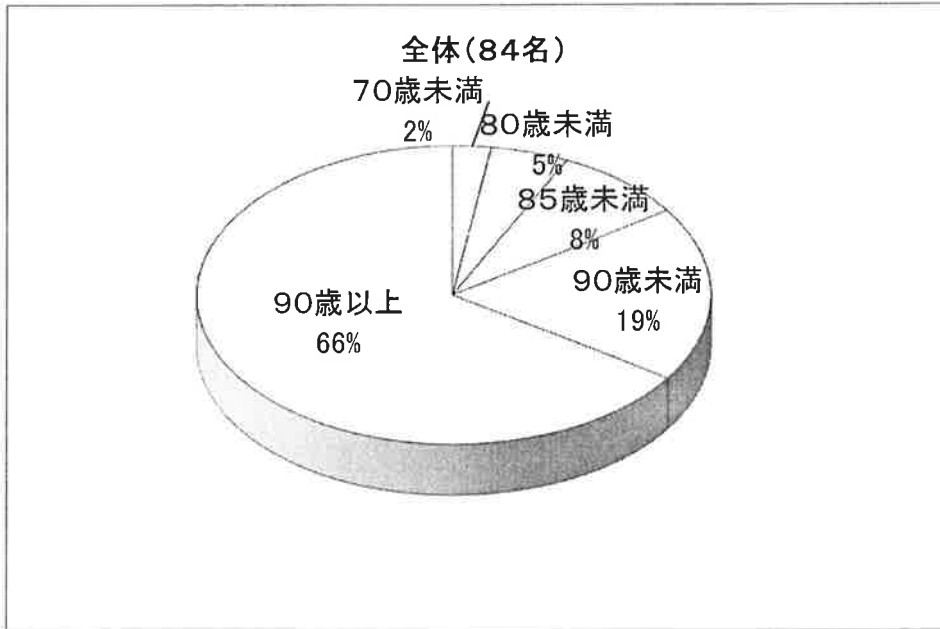
(5) 入退所の状況

	2年										3年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
入所	4	2	2	3	3	5	2	3	3	1	1	0	
退所	4	1	3	4	2	4	3	3	2	2	0	0	

(6) 入所者の状況(年齢・性別)

平均年齢：男 88.0歳，女 90.8歳，全体 90.4歳
(令和3年3月31日現在)
(人)

	50歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 85歳未満	85歳以上 90歳未満	90歳以上	計
男	1	1	1	3	6	12
女	1	3	6	13	49	72
計	2	4	7	16	55	84



(7) 入退院状況

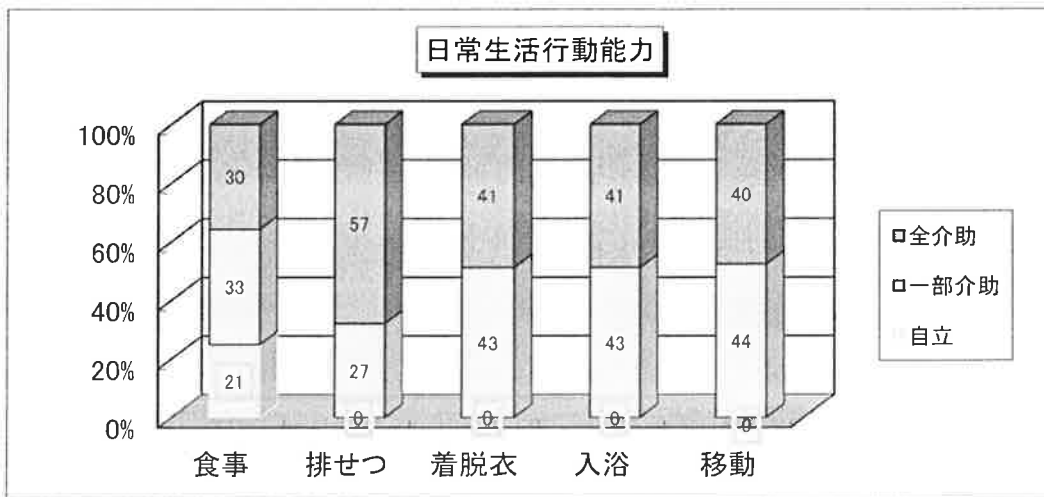
(人)

	入院			退院			月末 入院数	入院理由
	男	女	計	男	女	計		
2年 4月	0	3	3	1	2	3	2	腎結石・脳梗塞
5月	1	3	4	0	3	3	3	誤嚥性肺炎・尿路感染症・胆のう炎
6月	0	1	1	1	3	4	0	尿路感染症
7月	0	2	2	0	2	2	0	意識レベル低下・尿路感染症
8月	1	3	4	0	2	2	2	肺炎・左肺炎・重症肺炎
9月	1	1	2	2	1	3	1	症候性てんかん・尿路感染症
10月	0	1	1	1	2	3	1	膀胱尿管結石
11月	1	2	3	1	2	3	1	肺炎・右尿管結石・腎結石
12月	1	1	2	0	2	2	1	てんかん発作・肺炎
3年 1月	0	1	1	0	2	2	2	左大転子頸部骨折・尿路感染症
2月	0	0	0	0	2	2	0	
3月	0	1	1	0	0	0	1	右大腿頸部骨折
合計	5	19	24	6	23	29		

(8) 日常生活行動能力の状況

(令和3年3月31日現在)

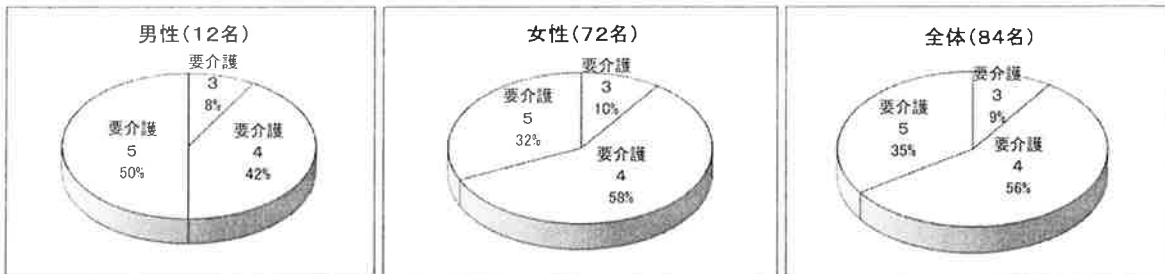
区分	食事			排せつ			着脱衣			入浴			移動			車椅子使用者数
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	
実数 (人)	21	33	30	0	27	57	0	43	41	0	43	41	0	44	40	76
割合 (%)	25.0	39.3	35.7	0.0	32.1	67.9	0.0	51.2	48.8	0.0	51.2	48.8	0.0	52.4	47.6	90.5



(9) 要介護度別状況

(令和3年3月31日現在)

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	1	5	6	12
女	7	42	23	72
合計	8	47	29	84
平均要介護度			4.25	



(10) 外出・外泊状況

(人)

		2年									3年			計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
外出	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	1	4	0	3	0	0	0	3	4	1	4	21
外泊	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		1	1	4	0	3	0	0	0	3	4	1	4	21

(11) 家族との面会状況

(令和3年3月31日現在)

	ほとんど毎日	週に1回位	半月に1回位	1ヵ月1回位	3ヵ月1回位	半年に1回位	1年に1回位	全くなし	計
人数	0	2	8	20	16	11	9	18	84
出身世帯への状況報告 広報誌「ゆあほうむ榛原通信」年2回発行									

(12) 特別養護老人ホーム年間目標・評価(本館(2階・3階)・クレーラー)

[特別養護老人ホーム]

令和2年度 特別養護老人ホーム年間目標

- 1 人材確保と人材育成
 - 人材育成の成果を高める意図的な仕組みづくり
 - 採用活動の評価と質の向上
 - 外国人スタッフの採用強化と指導スキルの向上
 - 働きやすい職場環境作り
- 2 サービスの質の向上
 - サービスご利用者様・ご家族様のニーズの把握
 - 新たな介護サービスの方向性を探る研究と実践
 - 働きがいのある職場作り
 - 自施設サービスのPR活動の推進
 - サービス評価の体系作り
- 3 地域貢献
 - 地域で力を入れている取り組みを通じ、関係者との連携の構築と発展
 - 地域の福祉避難所としての災害対応力の強化

【目標に対する評価】

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、OFF-JT(外部研修・集合研修)での参加機会は少なかったが、オンライン研修として参加した。必要な研修内容については、OJTを通じフィードバックを行ってきた。また令和2年度より施設内研修を法人内研修として位置づけ、それぞれの施設での取組等を共有してきた。同時に研修評価(フォロー体制)部分についても、研修のねらい・目的を明確化、共有した上で研修受講に繋げ、感想用紙を5段階と細分化し、研修内容理解度を評価するシステムへと変更し、研修の充実化へと繋げている。

専門性・組織性両面における人材育成、スーパーバイザーの養成教育という面については、次世代を担う人材育成を目的に、中堅職員研修の実施に向け、研修内容の作成に取り組んでおり出来次第研修を実施していく考えである。

令和2年度はEPA介護福祉士候補者を2名、留学生を8名採用し、指導にあたってきた。いずれの外国人スタッフもOJTを通じ、1CWとして必要不可欠な存在までに成長し、日本人スタッフの採用が難しいこの時代に、今後も外国人スタッフの採用強化を続けていき、サービスの質向上に繋げて行かなければならない。

働きやすい職場環境作りについて、定期的に産業医による職場環境のチェックや研修の実施を通じ、職場環境の理解・見直しに努めてきた。新型コロナウイルス感染症の影響で、職員各々、ワークライフバランスの実現は難しい状況下であったと思う。しかし、感染の拡大が抑えられない状況である事が事実でもあるので、自身のメンタルヘルスケアを行いながら、コロナ禍におけるワークライフバランスをどのように充実させていくかという事を考えていかなければならない事が次年度の課題として残る。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ご入居者様とご家族様の面会の機会が制限され、ご入居者様・ご家族様の想い、ニーズに沿ったサポート体制を作ることが難しい時期もあったが、新しい生活様式の中で出来る事を考え、面会などに関してもオンライン化するなど、ご入居者様・ご家族様の時間を大切にす様に努め、その中で、ご入居者様・ご家族様のニーズを探り、サービスへ反映させるという事にも努めてきた。またプロジェクトチーム活動では、「介護ロボット・ICT」の活用を活発化させ、介護負担の軽減・業務の効率化省力化・コスト削減へ取り組み、一定の結果へと導く事が出来た事は評価できる部分であると思う。来年度は更に、「介護ロボット・ICT」の活用の幅を拡げ、新たな活用方法を模索していく必要があり、これらの事を自施設の取り組みのPRまた研究実践発表へと繋げて行く考えである。

働きがいのある職場作りという事については、あらゆる会議の「運営と時間管理」という部分に着目し、効果的効率的に開催出来るようにスリム化を図った。この事で、会議の進行者のマネジメント

技術も問われるようになり、職員個々の成長にも繋がった事もある。会議のスリム化により、職員の精神的負担軽減へと繋がった事が、モチベーション向上に反映されている。サービス評価の部分では、第三者評価の評価項目(基準)に沿った、サービスまた研修等を発展する事を意識化しており、今後もこれらの事を継続して行い、サービスの質の向上に努めていく。

地域貢献について、オレンジカフェへの継続的な参加を行ってきた。今後のプロジェクトチーム活動として、認知症プロジェクトチームのみでなく、排泄プロジェクトチームからの在宅介護負担軽減へのサポート体制などについても、介護ロボットを活用した取り組みを考えていき、地域への貢献の他、PR活動としても位置づけ推進していきたい。

令和2年度は、自然災害だけでなく、感染症による被害が目立った。自然災害に対するBCP作成や訓練に加え、感染症に対するBCP及び訓練の実施が重要視され、取り組みを行ってきた。今後も、自然災害への対応と同時に、新型コロナウイルス感染症に対する研修・訓練を、新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生事例なども参考に対応力を強化していく必要がある。

令和3年度 特別養護老人ホーム年間目標

I 施設の次世代を担う人材確保と人材育成

1 人材育成の成果を高める効率的な仕組み作り

○個々の職員の学習目標に合わせたオンライン研修等への参加機会の増加

2 職員の成長と組織の発展

○専門性と組織性の両面での人材育成(中堅スタッフの育成)

○外国人スタッフの指導・育成

3 次世代に向けた採用活動の実施

○スタッフ募集のための魅力あるパンフレットの作成

○外国人スタッフの採用強化

II サービスの質の向上

1 介護ロボット、ICT等の活用による生産性の向上

2 LIFEの活用による科学的介護の実践

3 新たな介護サービスの方向性を探る研究と実践

○プロジェクトチームの計画的な活動と施設外での研究発表、実績報告の実施

III 地域貢献

1 感染症、自然災害への備えと業務継続に向けた取り組み

○コロナ禍における標準予防策の強化、クラスターを発生させない

○地域の福祉避難所としての災害対応力の強化

○BCP構築とマニュアル及び指針の整備・シュミレーションの実施

[本館(2階そーれ)]

令和2年度 本館(2階そーれ)年間目標

- 1 ご入居者様が生きがいを感じる事ができるケアを行う
 - ご入居者様の「喜び」「安心」をテーマとした情報の共有を行う新たな仕組みを作り、QOCの向上に結びつける
 - ご入居者様に対する言葉かけのケーススタディを実施する
 - アイデアボードを使用した余暇・日課活動の企画を立案する

【目標に対する評価】

情報共有の仕組み作りについて、日常の記録に残す形で実施。明確に定義した実施には至っていないが、ユニット会議内でそのような議題で意見交換する事が出来ていると感じている。

ご入居者様の食生活を振り返ると、「食べたいもの」の情報共有や実際の提供に繋がっていると感じる。その他の取り組みに繋げていく事が今後の課題と考える。

ケーススタディの実施については、実状具体的な実施には至っていない。マイナス面での関わりを見直すというテーマにおいては、ユニット会議内で2度実施した実績がある。

アイデアボードでの企画立案については、主にユニット行事の提案が行われている。今後は、これまで検討しなかった行事や活動・研修会についての意見抽出に繋げていく予定である。

2 やりがいを共有できる課題解決の実践

- アイデアボードを活用した研修・事例検討会・行事等の企画立案をすすめ、実践と評価を行う
- 職員の自己課題に対する目標達成に向けたPDCAサイクルを実施する
- 個別目標達成度のチーム間共有と承認を実践する

【目標に対する評価】

全体での実施については、それぞれの課題の質に対する、職員個々の心理的要因が深く絡む事が分かった。それにより、解決すべき(したい)課題ではなく、発表に際し恥じない課題が多く上がり目標設定や達成に対し、逆効果となったと感じる。職員個々の課題や目標に対する取り組みは、ある程度の密室性が保たれている事が必要と思われた。その為、今後はリーダー職員が検討と実践を行い、リーダーの成長を通じて全体を底上げする方針で実施内容を再検討する。

年間を通じ、問題・課題に対する反省点や解決方法を考えるという、後ろ向きな検討だけではなく、生活の質・ケアの質を高める目的で行い、前向きな検討の機会を作るという事が出来たと感じる。2つ目の目標は、職員に向けた内容であり、やりがい意識を向上させる事を目的としていた。「入浴剤の使用」「食べたい物の提供」や「おやつ時の雰囲気作り」などのサービス提供を通じ、これらの提案や検討を行った職員のやりがい意識向上に繋がった。

失敗を恐れる事・不安を処理出来ない事により、自分たちの課題から目を背け、他者や環境に対する不満や課題に目を向けてしまう出来事があった。以前に比べ、頻度は少なくなっているが、今後も同じような事が起こる可能性は考えられる。課題に対して、自分たちが出来る事や、出来るようになる可能性がある事に目を背け、チーム力の向上に繋げていく為のアクションプランが必要である。

令和3年度 本館(2階そーれ)年間目標

- 1 やりがいのある職員環境に向け主体的に考えてチームに反映させる
 - ミーティングの充実
 - コミュニケーション能力の向上
 - 信頼関係の構築と増強
 - アイデアボードの具体化と活用の実施

[本館(3階フェリーチェ)]

令和2年度 本館(3階フェリーチェ)年間目標

1 重度化してもご入居者様の暮らしを守る

- 介護ロボット、福祉用具を積極的に活用しつつ、活用に伴うリスクやご入居者様の不快感等も同時に検討が行えるシステムを整備する
- 記録時間を確保し、24時間シートの活用による記録の充実で重度化による意思疎通が困難であっても根拠あるケアを行うことができる
- 日常生活リハビリの理解、共有を広げ、その内容の見直しができるシステム作りをすすめることで重度化しても職員目線でのケアにならないチーム環境を構築する

【目標に対する評価】

以前と違い重度化する事によって、訴える事が出来ない方が増え、ケアの方向性に迷う事もある。しかし、表情の観察を意識して行う事により、ご入居者様の意向をくみ取れる事が多々あった。リフター、スライドボードを積極的に使用し、使用中・使用後に様子の観察を行うと福祉用具の使用を好まれない方もおられる事に気づいた。しかし職員の能力差により同じ視点で観察出来ていない。特に忙しかったり、多動なご入居者様が危険な行動をとられた時に、焦りから強い口調の声掛けになったり、十分な声掛けをせずにケアに取り組んだり、またケアを少し押しつけたりしている事もあったように思われる。年度途中で職員同士で不適切な声掛けが確認された時は、声掛けを行う対策となったが、「他職員には言いにくい」との職員も多く課題は残る。重度化により職員の身体的負担は以前よりも増しており、今後精神的負担へと移行していく事も考えられる。24時間シートを使い、ご入居者様の意向を考えたり、事故対策でもご入居者様の意向を考える様には努めており、目標の達成には少しずつであるが、昨年末よりは近づいている様に思われる。今年度の課題を来年度に活かせるように検討を行う。

2 働きやすい、働きたくなるチーム作り

- 職員間の「思いやり」に対する価値観を承認し、更なるチームワークの向上に努める
- 会議や課題検討チームの効率化を図る
- より良いケアを提供するための必要業務項目と不必要業務項目の選別を行う

【目標に対する評価】

他職員と関わる際には、挨拶の時からトーンなどを気に掛ける事により、逆に声掛けを行い悩みなど聞き出す事も出来たと数件の報告があった。しかし悩みを聞いても自分ではどうすることも出来ず、どうしてあげれば良いのかが分からない。働くも目的が違えば意欲も違い、中々価値観が違う人間同士で働くのは難しいが、サポートをしたり、次に業務を行う職員の為に配慮を行う職員も増えた。他者をサポートし、助かっていると実感した時は自分の意欲がプラスになる事もある。しかし、職員の能力差が著明に出ており、サポートする側の職員、される側の職員と明らかに分かれている様にも思われ、「どうせやってくれるし」との良くない風土も感じられる。全体的には、以前行っていたストレスマネジメントがコロナにより自粛せざるを得なくなり、確実にコロナストレスは広がっている様に思われ、職員間でも相手を思う気持ちに欠けていた声掛けや、感情的に言われたとの報告もある。その様な態度を取られても先輩職員には言えない事が多く、負のスパイラルへ行かない様に全体的に配慮が必要である。来年度もコロナによる自粛規制は続くものと思われ、職員間でストレスを与えない様な取り組みを新たに検討する必要がある。この1年、退職者が出ていない事は評価できる部分である。

令和2年度 本館(3階フェリーチェ)年間目標

- 1 ご入居者様の望む暮らし、気持ちを守る
- 2 働きやすい、働きたくなるチーム作り

[クレーター]

令和2年度 クレーター年間目標

- 1 その方の状態・ステージに合ったケアを提供し、QOLの向上を図る
 - できないことだけでなく、出来ることに着目したアセスメント及び情報共有と記録の活用を行う
 - 記録のための時間と、よりご入居者様の想いを知る時間の確保を図り、さらに24時間シートを活用することで、暮らしに沿ったケア・業務の見直しにつなげる

【目標に対する評価】

記録を活用し、24時間シート・ケアへの反映が出来た部分もあれば、その反面、記録時間を確保するという事が、一部業務によっては難しかった所もあり、今後の課題に残った部分と言える。アセスメントから情報の共有、記録の活用からご入居者様個々の「出来る事」への気づきを意識化して関わりを持っていたが、業務に追われ、焦りなどから職員がしてしまっている場面も多々見受けられていた事があった。

- 2 グループからチームへ。自身の声を出せるチーム作り
 - 職員間の信頼関係を強化する
 - 職員個々の考える力のレベルアップを図る
 - チームメンバーのモチベーションアップを意識した目標管理を行う

【目標に対する評価】

日々の挨拶や声掛けを意図的に行ってきた事で、職員間での信頼関係や業務内での連携に繋がっていた所があった。また、その延長でミーティング時などに、自身の意見を述べやすい雰囲気を感じる事が出来た時もあった。しかし、傾聴という技術の差は大きく、発言する機会を失ってしまう場面もあった事が事実としてある。今回の評価を通し、目標の視点としてはクレーターのニーズに沿ってはいたが、どのような切り口・プロセスで目標管理をおこなっていくかが課題解決への鍵となる。「働きやすい・働く事が楽しい」といった視点も加え、信頼関係の構築・モチベーションアップといった目標に向けて進む事も重要である。

令和3年度 クレーター年間目標

- 1 働きたくなるチームの構築
- 2 ご入居者様個々の状態や想いに沿ったケアの提供。ご入居者様、職員にも優しいケア

(13) 主な年間行事開催状況

年	月	日	行 事	備 考
2年	4月	12日	オリジナル・レク(2階)	皆でDVD鑑賞をして楽しむ
		19日	オリジナル・レク(3階)	皆でDVD鑑賞をして楽しむ
	5月	5日	端午の節句	皆で柏まんじゅうを頂く
		20日	たこ焼きパーティー(2階)	大好きなたこ焼きを頂く
	6月	7日	オリジナル・レク(2階)	皆でDVD鑑賞をして楽しむ
		30日	おやつパーティー(3階)	かき氷を皆で頂く
	7月	5日	七夕祭り(3階)	皆で七夕飾りを作る
	8月	27日	花火大会(クレーレ)	夏の風物詩の花火をテレビ鑑賞をする
	9月	20日	敬老会パーティー(3階)	メッセージカードを手渡しして写真撮影
	10月	4日	オリジナル・レク(3階)	皆でDVD鑑賞をして楽しむ
	12月	6日	クリスマス会(2階)	ケーキを食べて、プレゼントをもらう
		31日	忘年会	年越そば
	3年	1月	1日	元旦
2月		3日	節分	節分料理
3月		3日	ひな祭り	ちらし寿司
		7日	オリジナル・レク(2階)	皆でDVD鑑賞をして楽しむ
24日		消防訓練(日中)	皆で真剣に取り組む	

(14) 週間予定表・日課表(本館・クレーラー)

[本館]

	午 前	午 後
月	クラブ活動 レクリエーション PTリハビリテーション指導	入浴(3F女性) PTリハビリテーション指導
火	クラブ活動 入浴(特浴男性,女性) レクリエーション PTリハビリテーション指導	入浴(2F女性)(2F,3F特浴女性) 回診(3F) PTリハビリテーション指導
水	クラブ活動・PTリハビリテーション指導 レクリエーション シーツ交換(2F)	入浴(特養・ショートの特浴)(2F,3F男性) (一部女性) PTリハビリテーション指導
木	クラブ活動 レクリエーション PTリハビリテーション指導	入浴(3F女性) 回診(2F) PTリハビリテーション指導
金	クラブ活動・PTリハビリテーション指導 レクリエーション 入浴(特浴男性,女性) シーツ交換(3F)	入浴(2F女性)(2F,3F特浴女性) PTリハビリテーション指導
土	レクリエーション PTリハビリテーション指導	入浴(特養・ショートの特浴)(2F,3F男性) PTリハビリテーション指導
日	PTリハビリテーション指導(月2回)	

7	起床、更衣、洗面	基本的な排泄介助
8	朝食(7:30~8:30)	
9		
10	オリジナル体操	
11	通院、クラブ活動(週2~3回)	
12	昼食(12:00~13:00)	
1	ゆとりの時間、回診(各階週1回)	
2	入浴(月~土曜日)	
3	おやつタイム	
4		
5		
6	夕食(18:00~19:00)	
7	ナイトケア	
8		
9	消灯	

基本的な排泄介助

AM 9:00

11:00

PM 1:00

3:00

4:00

7:00

9:00

AM 0:00

4:00

5:00

6:00

[クレアーレ]

	午 前	午 後
月	クラブ活動 シーツ交換	入浴 シーツ交換
火	クラブ活動 シーツ交換	入浴 シーツ交換
水	クラブ活動 シーツ交換	入浴 シーツ交換
木	クラブ活動 シーツ交換 PTリハビリテーション指導	入浴 シーツ交換 PTリハビリテーション指導
金	クラブ活動 シーツ交換	入浴 シーツ交換 回診
土	クラブ活動 シーツ交換	入浴 シーツ交換
日		

7	起床、更衣、洗面	基本的な排泄介助
8	朝食 (7:30~8:30)	
9		
10	通院、クラブ活動、レクリエーション	
11	入浴	
12	昼食 (12:00~13:00)	
1	ゆとりの時間、入浴(13:30~)	
2		
3	おやつタイム	
4		
5		
6	夕食 (18:00~19:00)	
7	ナイトケア	
8		
9	消灯(21:00)	

(15) 給食の状況(特養)

給与栄養量

特養	エネルギー Kcal	たん白質 g	脂肪 g	カルシウム mg	鉄 mg	レチノール 当量 ugRE	ビタミン B1 mg	ビタミン B2 mg	ビタミン C mg
1人1日平均 給与量 A	1,585.0	58.6	43	602	6.2	579	0.74	0.99	92
給与目標量 B	1,600.0	53	44.4	600	6.5	450	0.8	1	80
充足率A/B×100	99.1	110.6	96.8	100.3	95.4	128.7	92.5	99	115

イ、献立方針

毎食の残飯調査や嗜好の聞きとりで、入所者に好まれる食事で、食べやすい物を提供出来るよう工夫・検討すると共に、食事により季節感が味わえるよう心掛けている。

ロ、栄養基準量の算出根拠

『日本人の食事摂取基準(2020年度版)』の身体活動レベル I (低い【1.45】)より算出する。

